

令和5年度 日南市立鷺戸小中学校 自己評価及び学校関係者評価の報告

(4 = そう思う 3 = ややそう思う 2 = あまりそう思わない 1 = そう思わない)

評価項目	評価指標	方策・手立て	各種アンケート					自己評価	外部評価	学校の自己評価分析	外部評価者意見
			児童	生徒	小学校保護者	中学校保護者	職員				
【知】 確かな学力を身に付けさせます。	◎ 基礎・基本の定着と活用する力を習得させます。	・児童生徒が、わかる、できる授業実践のための研究 ・小学部の複式解消や高学年の教科担任制への取組 ・研修等による教師の指導力向上 ・思考力、判断力、表現力を図る授業実践	3.7	2.6	3.6	3.6	2.9	3	4	○ 校内研究として、全教諭が研究授業を実施し、授業改善に努めることができた。 ○ 中学部職員の乗り入れ授業を通して、小学部の複式解消や中学部における系統的な指導につながっている。 ○ 表現力については、職員研修において、本校児童生徒に必要な資質・能力として共通理解し、意識して指導を行っている。今後も意図的、計画的に育成する機会を設け、見届けていく必要がある。	・ 生徒の評価が気になります。何がそう思うのか、直接生徒に聞くことも必要です。 ・ 児童・生徒が「授業のねらい」「授業で分かったこと」等を振り返る機会をどのように与えるか検討することも必要です。 ・ 授業を多く参観していないので、評価は疑わしいです。 ・ 小中一貫校ならではの教育の工夫やNIE活動の取組等、子どもたちの未来への基礎づくりとして有効である。新聞等の記事を目にするにつけ、学校の努力に感謝しています。
	◎ 家庭学習の充実を図ります。	・基礎・基本の力を高める課題の工夫 ・授業につながる課題や各自の課題解決のための家庭学習の工夫	3.5	2.3	2.9	2.7	2.5	3	3	○ 1学期に課題の内容や提出方法について、研修で確認をした。3学期最初に再度確認し、「学びの確認」を意識して継続的に家庭学習が充実するような工夫をしていく。	
	◎ 個に応じた指導や支援を行います。	・児童生徒の学習内容の定着度に応じた指導の充実 ・困り感のある児童生徒への支援の充実	3.8	3.8	3.5	3.4	3.4	4	4	○ 特別支援教育に関する共通理解を図り、個に応じた支援や指導について体制づくりの見直しを行い、組織的に対応するなどして、改善を図ることができた。	
	◎ 読書活動等を積極的にを行います。	・新聞への投稿や新聞を教材としたNIE活動の充実 ・朝の読書活動や相愛リーディングでの読み聞かせ活動の充実 ・「旅する読書」「ビブリオバトル」等への参加	3.8	3.0	3.6	3.1	3.2	3	4	○ 朝の読書の時間やたいよう号の活用など読書推進を図り、本に親しませることができた。 ○ 新聞への投稿やNIE活動など、積極的に取り組んでいる。	
【徳】 豊かな人間性を育てます。	◎ 道徳及び人権教育を充実させます。	・特別の教科道徳の授業内容の充実と授業実践の工夫 ・いのちの教育週間、人権週間の取組の実践	/	/	3.4	3.9	3.3	4	4	○ いのちの教育として、参観日に日南市のレインボープランを各学級で実施し、保護者にも啓発したり、道徳の時間を工夫し充実を図ったりしている。	・ 自分を好きになり大事にし、他人を尊重する心を、これから育ててください。 ・ 児童・生徒のちょっとした変化に気付く意識を、これからももってください。 ・ 教育の成果は、運動会や潮風祭の伸び伸びとした児童生徒の融合性ある活動をとおして見ることができます。
	◎ 小中学生合同で行う活動等を計画的に行います。	・学校行事や児童生徒会での小中連携活動の充実 ・清掃活動の小中縦割りでの実施と清掃の充実 ・ボランティア活動の推進	3.8	3.6	3.9	4.0	3.3	4	4	○ 週1回小中縦割りで清掃活動を実施したり、クリーン活動を実施したりすることができた。また、潮風祭や運動会、愛のお便り運動等の行事を、児童生徒会活動を中心に実施し、小中連携することで、充実した行事等を行うことができた。	
	◎ キャリア教育の充実を図ります。	・将来を見通した小中一貫のキャリア教育の実施 ・職場体験学習等の体験学習の充実 ・地域の良さや課題、生き方等を考える総合的な学習の時間の充実	3.9	3.8	3.0	3.4	3.0	3	4	○ キャリアパスポートを活用したり、総合的な学習野時間の成果を潮風祭での発表につなげたりした。昨年度キャリア教育の年間計画を改善しており、今後も継続的に実践と見直しを行っていく。	
	◎ 教育相談体制の充実に努めます。	・児童生徒が相談しやすい環境づくり ・巡回相談員やSSW、SCとの連携	3.9	3.6	3.1	3.1	3.3	3	3	○ 児童生徒に心のアンケートを毎月実施し、悩みや不安の早期発見・解消に努め、いじめ・不登校対策委員会で共通理解を図ることができた。関係諸機関（SC、巡回相談員など）とも連携し、児童生徒及び保護者の悩み等の解消に努めることができた。	
【体】 自主的な健康づくりと安全教育を実践します。	◎ 健康教育と食に関する指導を推進します。	・性教育等の充実 ・保健衛生面での指導の充実 ・給食指導の充実 ・弁当の日の実施 ・食習慣の実態調査と個別指導	4.0	3.6	3.7	3.6	3.2	4	4	○ 日南市のレインボープランに沿って、性教育を各学年で実施することができた。 ○ フッ化物洗口やテーマを設けた弁当の日等を計画的に実施し、保健日より等で家庭に啓発することができた。	・ どのような災害でも、自分を守ることの大切さ、重要性を、今後もよろしく願いします。 ・ 自己の健康づくりは、ここから始めるのだと、改めて感じました。 ・ 刺激し合い、学び合える児童生徒が少ない中での指導には、様々な工夫と努力を感じます。
	◎ 健康に対する自己管理能力を高めます。	・体力向上プランの実施と個人目標の達成 ・基本的な生活習慣の定着のための指導 ・運動に親しませるための指導内容や方法の工夫 ・業間や昼休みの外遊び等による基礎体力向上の取組	3.9	2.9	3.4	3.0	2.9	3	3	○ 昼休みに、中学部の生徒も遊ぶ姿が見られるようになった。 ○ 体力向上プランを踏まえた取組について、体育の授業に限らずさらに充実を図る必要がある。また、家庭と連携した取組をしていく必要がある。	
	◎ 部活動の効率的な実施を継続します。	・適度な休養と効果的な活動の工夫	/	/	/	/	3.4	3	3	○ リフレッシュデー、家庭の日、週1回の休養日を確実に設定することができた。 ○ 部員が1人ではあるが、日々の活動の成果が出ている。	
	◎ 安心・安全な学校にします。	・子どもを主体とする防災学習と諸訓練の工夫と充実 ・校内点検に基づく施設などの改善 ・危機管理マニュアルの徹底	3.8	4.0	3.9	3.7	3.0	4	4	○ 毎月安全点検を実施し、危険箇所については早期に対応することができた。 ○ 防災訓練計画や危機管理マニュアルを見直し、防災学習や場面に応じた諸訓練を実施し、充実した学習にすることができた。	
【地域】 地域や保護者とともにある学校づくりを行います。	◎ 地域や保護者に信頼され開かれた学校づくりを行います。	・コミュニティスクールの実践 ・学校だより等による情報発信 ・学校評価の実施と評価の公開	/	/	3.7	3.4	3.3	3	4	○ 各学級の学級だよりや学校だより・ホームページ等により、学校の情報を定期的に発信することができた。 ○ 潮風祭や運動会だけでなく、オープンスクールや参観日を通して、保護者に限らず地域の方々にも学校の様子を見てもらう機会を設けることができた。	・ 学校行事と地域の行事の調整を、早めに行けるといいですね。 ・ 何かを実施するとき、学校側からの考えだけでなく、「逆さメガネ」保護者・地域の視点で考えることも、必要ではと考えます。 ・ 様々な場面や機会をとおして、学校がよく見えるようになった気がします。 ・ 地域での子どもたちも、伸び伸びとし、元気いっぱいです。あいさつもよくなっています。
	◎ 各関係機関等との連携を図ります。	・市教委や警察等との連携による危険箇所の把握と改善 ・火災や不審者などでの連携した危機管理 ・民生委員等のボランティア活動による児童の下校時の見守り活動	3.8	3.5	3.5	3.6	3.2	4	4	○ 警察署、消防署、日南市役所関係各課から講師を招き、専門的な立場から児童生徒に講義・演習を実施することができた。また、放課後子ども教室や児童クラブの設置に向けて取り組み、放課後の子どもを見守る体制づくりができた。	
	◎ 地域の各団体等との交流活動を推進します。	・地域での体験活動や交流活動の充実 ・保育所や特別支援学校等の交流学習の充実	3.8	3.4	3.7	3.4	3.4	4	4	○ いきいきふれあいサロンや花いっぱい運動等を通して、地域の方々と交流を図ることができた。また、保育所や特別支援学校とも交流を図ることができた。	
	◎ 地域の教育力を積極的に取り入れます。	・地域の人材を生かすための地域コーディネーターの活用 ・児童生徒の活動支援ボランティアの導入のための環境整備 ・ふるさと学習等での地域の人材の活用	3.8	3.5	3.5	3.3	3.3	3	4	○ 地域コーディネーターを通して、地域における各種連絡や調整に活用することができた。また、地域の人材を講師として招き、職場体験の事前学習を実施することができた。	

1 本年度の取組について
校内研究として、全教諭が研究授業に取り組むとともに、管理職による授業参観及びフィードバックも行うことで、授業改善につなげることができた。アフターコロナにおける新しい学校の在り方を模索しながら、安全・安心・安定した学校運営となるよう、潮風祭や運動会などの行事やPTA活動等において、保護者や関係機関等と連携を図り、多様な意見を取り入れながら、新たな形をつくることができた。防災教育にも力を入れ、昨年度の反省を生かしながら、より場面に応じた学習を実施することができた。また、様々な機会を捉えて地域人材や関係諸機関を活用することで、学習活動の充実やより専門的な立場から児童生徒及び教職員への支援の充実を図ることができた。

2 次年度への改善に向けて
小規模校の強みを生かして、個に応じた支援をさらに充実させるとともに、授業改善を今後も進めながら、全体的な学力の向上につなげていく。そのために、思考力、判断力、表現力を高める指導方法の改善や家庭学習の習慣化に継続的に努めていく。また、今年度広げたアフターコロナの取組を、児童生徒に負担のない形で、地域と連携しながら充実させることで、開かれた学校づくりを推進していく。

※ 学校の「自己評価」及び「外部評価」は次のとおりです。 3.5以上・・・4 2.5以上3.5未満・・・3 1.5以上2.5未満・・・2 1.5未満・・・1